

汪倫おうりんに贈おくる

李り白はく

李白舟乗りて将まさに行ゆかんと欲ほつす

忽たちまち聞きく岸上踏がんじょうとう歌かの聲こえ

桃花潭水とうかたんすい深ふかさ千せん尺じやく

及およばず汪倫おうりんが我われを送おくる情じょうに

【作者】李白(七〇一〜七六二年)盛唐の詩人。杜甫(とほ)と並び称される。蜀(しよく)の錦州彰明県青蓮郷(きんしゅうしょうめいけん)

せいれんききょう)の人で青蓮居士(せいれんこじ)と号した。幼にして俊才、剣術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗皇帝の側近にあり、後再び各地を転転とし多くの詩をのこす。安祿山(あんろくさん)の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳、病のために没す。

【語釈】*汪倫：安徽省涇県(あんきしやうけいけん)にある桃花潭の村人 酒造家ではしばしば李白に酒をもてなした人

*踏歌：手をつなぎ足を踏みならしてうたう歌 *桃花潭水：潭はふち 川の水 安徽省涇県にある涇の名

*不及：桃花潭の水の深さも汪倫の心の深さには及ばない

【通釈】私は今、小舟にのつて、いよいよ桃花潭を出発しようとしている。突如岸の上で足を踏みならしながら歌う声がきこえてきた。この桃花潭の水は、深さ千尺もあるという。それでもその深さは、汪倫が私を送ってくれる情の深さには及ばないのだと、汪倫の友情の深さをのべている。汪倫や村人たちの素朴な感情と、別れを惜しんでくれる深い心とに感謝した詩である。

【備考】李白五十五歳の作、見送る者が旅立つ人に贈る詩が多い中で、この詩は送られる李白が見送る汪倫に詩を贈っている。

(一)の作品は留別の詩という)